

星景写真コンテスト入賞作品目録



一席

「故郷の星空」

加川 清三郎さん
(鳥取県)

鳥取県米子市で撮影された伯耆大山。住まいは鳥取県西部。まさに日夜親しんできた伯耆大山と星空とのコラボレーション。広角レンズにより北東から南東へかけて昇ってくる星座。大山のシルエットを映した田植えを終えたばかりの水田にはそれらの星々が軌跡を引きます。水平に延びた光の条と街灯が人の暮らしを教えます。誰でもが持つ郷愁をこの一枚の写真に現わした素敵な雰囲気。心安らく作品です。

※掲載した作品は、印刷時に作品本来の質が損なわれております。ご了承ください。
※入賞作品は、鳥取さじアストロパーク公式ホームページにも掲載しています。
※同じ賞の掲載は、受付順に並んでいます。

第22回鳥取市さじアストロパーク星景写真コンテスト

- ☆主 催☆ 鳥取市さじアストロパーク
- ☆協 力☆ 写友会カプリシャス、鳥取天文協会
- ☆協 賛☆ 中央光学、テレスコープセンターアイベル、天文ハウスTOMITA、
(株)中井脩、三鷹光器(株)
- ☆後 援☆ (株)さじ式拾壺、星ナビ編集部&AstroArts
- ☆募集期間☆ 平成27年12月1日(火)～平成28年1月15日(金)
- ☆応募結果☆ 197点(93名)
- ☆審 査☆ 委員長/佐治天文台台長・香西洋樹
委員/鳥取市さじアストロパーク副所長、ほか



審査委員長 香西洋樹(佐治天文台長)

佐治天文台は、今年(2016年)で開設以来満22年を迎えます。当初から継続して来たこのコンテストも、前回までと同様「星のある風景」をモチーフにした「星景写真」として全国的に募集いたしました。その結果、北海道から四国・九州、さらに沖縄に渡る全国各地の73名により164点の作品が寄せられました。また佐治天文台と緊密な関係にある鳥取大学の天文研究会の学生の皆さんによる作品が33点(20名)寄せられました。つまり総計は197点で、これは嘗(かつ)てないほどの応募点数になりました。

応募頂いた方々の年齢は、前回と同様に10歳代の方から70歳以上の高齢の方までに亘り、特に若い方々の応募数が増し、今後が期待されそうです。これは星空、言い換えると人と宇宙についての関心が深まったことを示しているのではないかと思います。

今回、応募された作品を拝見するとき、作者自身の自然との関わりや、自然観、さらに人生観などを感じさせられるような作品が数多くありました。若年の人は新鮮な眼差しで、高齢者は成熟した瞳で見つめ、人と宇宙の関わりを表現しました。また、撮影の場所についても、いわゆる撮影のための遠征に加えて自宅付近、いわゆる故郷の星空を改めて見上げる姿勢が見られることは大変好ましいことと感じます。評者は、以前から居住地の、言い換えると生活の拠点の星空を大切にしたいものと語り続けてきました。星空は、環境を示す指標なのです。

入選作品については個々に選評を書くことにいたしますが、全応募作品が作者自身で納得し、厳選された上での応募であることを、如実に感じました。一方、作者の作品に対する強い愛着心から、余分ではないかと思われる部分が残されたり、また星が主役なのか風景が主役なのか判り難い作品もあり、これ等がかえって作品の印象を弱める結果を招いている作品もあり残念でした。

格段の進歩が見られたデジタルカメラとプリンターについては、画素数や色調も、天体、特に星の像を点像として描出する能力が格段に進歩、向上したことに驚かされます。デジタルカメラと画像処理、さらに高画質プリンターの普及により、天体を含むテーマがより身近になったことは素晴らしいことに違いありません。しかし、あくまでも自然が対象です。目で見て好感が持てる作品が何よりです。行き過ぎた処理には問題が残ります。

応募作品を拝見し、回を重ねるごとに完成度が高まったことを強く感じ、さらにこれまでの応募者に加えて、初応募の方や若い愛好者が増加したことも大きな喜びでした。写真が手軽に撮影でき身近になってきた一方で、天体を含む自然の写真に対して関心が低下してきていると危惧する声も聞かれます。星空と我々人間の営みは、何時までも皆様と共有していきたいものです。

特に最近頻発する自然災害。これも地球誕生以来繰り返されてきた自然現象で、早い復興を心から願い、その被災地の上にも太古からの変わらぬ星空があることを心に留めて置くことも大切なのではないのでしょうか。

最後に、このコンテストを催すにあたり、多くの方々にご協賛・ご後援をいただきました。主催者として、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

二席「水芭蕉の森に銀河昇る」佐藤 崇さん(宮城県)

撮影地は高所なのでしょうか？ 近景の薄闇に水芭蕉が白く点在します。その森の上空には夏の大三角が銀河と共に懸ります。疎林を透かして見えるのは市街光でしょう。木立の梢の先に光る星々の点像が目には焼きつきます。闇と星空の間に木々のシルエット。素敵な雰囲気醸し出した素敵な作品です。



三席「瀬戸の夜」

楠本 毅さん (香川県)



香川県から望んだ夜の瀬戸内海と北天の星。多くの島々が浮かぶ多島海。その島々の間のせまい瀬戸を多くの船が光の軌跡を残して過ぎゆきます。その上には北極星を巡る星々の軌跡。軌跡の示す時の経過と人の営みでしょう。北極星が画面右に配されていて、広角レンズの特徴を知ることができます。仕上がりもソフトで、目に優しい作品です。

三席「イカ釣りの終わる頃」

八木谷 祐一さん (鳥取県)



イカ釣り船の灯火も少なくなり海上の賑わいも終わるころ、鳥取砂丘を近景に日本海上に軌跡を残す北天の星々。褐色の砂に描かれた風紋と海上の小島(海士島)。イカ釣りという人の営みと砂丘と天の星々。いずれも長い年月を経た、時の刻みを教えます。いつまでも残したい自然と人とのたたずまい。地元に住む作者のこだわりが生んだ作品でしょう。

特別賞



「星を観る人々」湯淺 光則さん (兵庫県)



「見上げれば・・・」石原 大稔さん (神奈川県)



「晩秋告げる」内山 しおりさん (愛知県)

特別賞



「足元のオリオン」入江 中さん (沖縄県)



「星がつなぐ絆」高橋 知江さん (北海道)

佳作



「春の彩り」
永井 潤さん
(北海道)



「大山賛歌」
岡田 稔さん(島根県)



「月光下の火矢」
尾形雅信さん(三重県)



「秋の北斗」
佐藤嘉恭さん(新潟県)



「Starry road」
鈴木克哉さん
(神奈川県)



「黄道光と冬の銀河の宙」
長縄範雄さん(東京都)



「砥峰高原の霧夜空」
池谷美弥子さん(鳥取県)



「雄阿寒岳にふりそそぐ星達」
高橋米子さん(北海道)



「春の鳥海山」
木村洋介さん(宮城県)

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1 TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

<http://blog.zige.jp/saji-astro/> e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp